



集団宿泊活動で得られたこと

6月29日(木)・30日(金)に、5年生が松山市野外活動センターで集団宿泊活動を行いました。野外活動センターを使う利点は、①移動時間が短く子どもたちの負担が軽くなる、②緊急対応が迅速にできる(保護者の方の迎えや病院対応等)、③天候に左右されにくく(全天候型のキャンプファイヤー場と広い体育館がある)、活動時間にむだが生じにくい、④市内の施設であり連絡・調整がしやすい、ということが挙げられます。大三島少年自然の家の魅力も十分承知していますが、今回のように雨が続くと、活動がかなり制限されたことでしょう。

初日の入所式の際、子どもたちに右のようなことを伝えました。真剣に活動することは、安全への配慮であり、責任を果たすことで

【入所式で伝えたこと】

- 〇んげんに、㊦もいやりをもって、㊤んなで活動しましょう。
- 五感を使って活動しましょう

もあります。野外では特に「真剣に楽しむ」ことが大切です。また、グループでの活動が中心ですので、相手に対する思いやりは欠かせません。そして、単独で行動せずみんなで協力しながら活動することは大原則です。そのことを「し・お・み」で表しました。

さらに、豊かな自然の中で過ごす2日間ですから、動植物を見たり、虫や鳥の声を聞いたりしてほしいと願っていました。カレー作りなどを通して香りや味を感じ、山の風や温度、湿度も肌で感じてほしいと思いました。

子どもたちは、充実した2日間をおくることができました。雨で星空観察やオリエンテーリングはできませんでしたが、レクリエーションやスポーツ大会で楽しく活動しました。カレー作りでは、「今まで食べたカレーの中で一番おいしい」と言っている子もいました。キャンプファイヤーも、レクリエーション係が大いに盛り上げていました。

今回の集団宿泊活動で感じた三つのことを、解散式で子どもたちに伝えました。まず、

この経験を生かしてほしいということです。時間を守ること、協力すること、責任を果たすことができましたから、自信になったはずです。高学年として一回りたくましくなった姿を見せてほしいと思います。

【解散式で伝えたこと】

- 経験を生かすこと
- みんなで過ごすことに楽しみを見出したこと
- 思い出を大切にしていること

次に、ゲームやインターネットなどが無くても楽しく過ごせることに安心したということです。5年生の子どもたちは、仲間と一緒に過ごすことに楽しみを感じていました。時代は変わっても子どもの本質は変わっていない、と思いました。

最後に、思い出を大切にしている姿をうれしく思ったことです。水筒に付けたり、ずっと持ち歩いたりして、自分が作ったキーホルダーを大切にしていました。既成のものでない、自分が作った唯一無二のものに、思い出を詰め込んでいる子どもたちの思いが伝わりました。

優しく明るい5年生の姿が見られた、1泊2日でした。

